

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は30ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国

語

(60分)

100点

(解答番号)

1

5

45

()

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

夏みかんの木の葉は深緑でつやつやしている。厚ぼつたいし密集してつくので、ちょうどいい木陰ができる。地面に直接すわっているの、私のお尻も私の腿も、ひんやりとつめたい。

ここから眺める庭はまぶしい。物は何一つ動かないのに、木もれ日や蝶々がふいにちらちら動くので、何だか騙し絵みたいに見える。自分だけが日陰にいて、まわりは全部日なたで。

遊ぼうと思つて本やしゃぼん玉液や、虫めがねや万華キョウ(1)を持ってきたけれど、なんとなくどれにも手をつけないでいる。むうつとする夏の風、空気がゆらゆらする。

勿論卯月(注1)ほどではないけれど、私もこの庭のことなら隅々まで知っている。どの季節に、どこに何の花が咲くかも、もぐらを目撃する確率のいちばん高い場所がどこかも、どの木の枝の餌台(えさだい)に、メジロやヒヨドリがたくさんやつてくるかも。

去年まで、藤棚(ふじたな)の支柱とその横の木の枝のあいだに、ハンモックがぶらさげてあった。おじいちゃん専用のハンモックで、晴れた昼間には色とりどりのクッションが、つねに積み重ねられていた。クッションはおばあちゃんの手製で、タイや中国から輸入したシルク特有の、あざやかな光(2)タクが庭によく似合っていた。

おじいちゃんはよくそこで本を読んでいた。あるいは、顔(3)にボウ子(3)をのせて昼寝をしていた。藤棚の上に煙草盆(たばこぼん)を置いて。たしかにおじいちゃんは無口だった。母や百合叔母や桐叔父がよく言っていたように、「頑(4)コ」で「融(5)通(5)がきかなかつた」かも

しれない。夕食がすむと他のみんなのように居間で寛(くわ)ぐことはせず、すぐに部屋にひきあげてしまったし、家族で買物や外食に行くときも、滅多に一緒に来なかつた。

でも私にはやさしかった。アチーン（二）からヂェースイチ（十）までの数え方とか、ズドラーストイ、スパスィーバ、ザミチャーチイリナ、といったロシア語を教えてくださいましたのはおじいちゃんだし——でも、ロシア語といえば、忘れられないのは「ラードナ、ラードナ」だ。これは教えてもらったわけじゃない。おじいちゃんがおばあちゃんに対してだけ、ときどき使っていた言葉だ——、犬たちの話を聞かせてくれたのもおじいちゃんだ。

犬たち——。私は見たこともないけれど、この庭には六頭のポインターが眠っている。やんちゃで、ドッグボーイの言うことをちつともきかず、おじいちゃんの言うことだけ忠実にきいたマクシミリアン、ものすごく賢かったイーガリと、おばあさんだけれど子犬みたいに元気のあり余っていたボーリヤ。箱根の山で不慮の死をとげてしまったヴィンセントと、母のお気に入りだったフルスチャーシエ、氣立てがよくて、決して吠えなかつたマウルス。一度に二頭ずつ飼われていた犬たちは、私が生まれるときにはみんな死んでしまっていて、でも、空っぽのケージだけはいまもそのまま残っている。

口髭は立派だったけど、おじいちゃんはあるつるに禿げていた。小柄だけれどがっちりした身体つきで、おばあちゃんをよく「農夫のような風格がある」と言っていた。煙草喫みだったので、手の指に枯葉みたいなにおいがしみついていた。まわりに誰もいないとき、おじいちゃんは自分用のボンボンやチョコレート(9)を、
(10) 急いでしゃぼん玉液を手にとったのは、玄関の戸があって、姉のでてくるのが見えたからだ。姉はたぶん、夏みかんの木の下に一人ですわっている私に気づくだろう。子供が何もせずにはすわっていると、大人というのは心配するものだ。そして、姉はもう大人だった。(11) この家の、外の世界を受け容れているのだから。

「陸ちゃん」

予想通り、姉は気づいた。やって来て膝をかがめ、

「何してるの？」

と、訊いた。

「しゃぼん玉」

見ればわかるでしょ、という口調で私はこたえ、コップの中の液体を、ストローではちゃばちゃかきまわした。ついでにふうつと吹いて、しゃぼん玉を二つとばした。

「きれいね」

目を細めて見送って、姉は言う。

「卯月は？」

尋ねられ、知らない、とこたえた。

「めずらしいわね。いつも一緒なのに」

ほんとうは、卯月がどこにいるのかもちろん勿論知っていた。隣の家には、祖母と二人で行っているのだ。シズエさんの孫の文ちゃんが、夏休みで遊びに来ているから。

「お姉ちゃんはどこに行くの？」

尋ねると、

「映画よ」

というこたえが返った。

「でもきょうは、晩ごはんまでには帰るわ」

「千春ちゃん？」

「いいえ。大学のお友達と」

いつてらっしゃいと、私は言った。きっとボーイフレンドと行くのだろうと思ったけれど、それは言わなかった。

姉が行ってしまうと、庭はまたしんとした。私はしゃぼん玉をたて続けにとばす。上へ上へ、神様によばれているみたいのぼっていくしゃぼん玉たち。

おじいちゃんは、ときどき図書室にやってきた。ただ本を取りにくるだけのときもあれば、私がどのくらい大きくなったか確

かめにくるときもあつた。そんなときは、

⁽¹²⁾「ひさしぶりだな」

と、言った。毎日、すくなくとも夕食のときには会っているのに。でも私は「うん」と言つてうなづく。おじいちゃんがそう言つたときには、次に何が待っているかわかつていた。

本箱の一つに、かかとと背中をびったりくつつけて、私は立つ。

「あごを引いて」

おじいちゃんは言い、私の頭の上に三角定規をあてがう。一瞬ぐつと押さえつけられるので、すごく重い。

「動くな」

それは壁際に置かれた本箱で、そこに私の大きさの印があることは、私とおじいちゃんだけの秘密だ。刻まれる印はとて小さく、横に書き込まれる日付がなければ見分けがつかない。そして、その日付を見るためには、いつもそこにあるフロアスタンドをどけて、壁とのあいだの⁽¹³⁾セマ^い空間に入り込んで、じつと目を凝らさなくちゃならない。

セミが鳴いている。上へ上へのぼるしゃぼん玉は、日ざしをうけてきらきらし、でもいきなり^{はじ}弾ける。あちこちで、音もなく。藤棚の横に、ハンモックはもうぶらさがっていない。

(江國香織『抱擁、あるいはライスには塩を』による)

(注1) 卯月——文中の「私」である陸子の弟

(注2) ドッグボーイ——犬の世話や訓練などをする少年

(注3) ボンボン——かためた砂糖やチョコレートの中に洋酒や果汁などを入れた菓子

問1 傍線番号(1)・(2)・(3)・(4)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1
～
5

(1)

万華キヨウ

1

- ① 試合を実キヨウする
- ② 丁寧なもてなしにキヨウ縮する
- ③ キヨウ言を鑑賞する
- ④ キヨウ会で祈りをささげる
- ⑤ キヨウ台で化粧する

(2)

光タク

2

- ① タク山の贈り物
- ② 屈タクのない笑い
- ③ 荒地を開タクする
- ④ 多数決で採タクする
- ⑤ 大きな邸タクに住む

(3)

ボウ子

3

- ① 自ボウ自棄に振る舞う
- ② 小説のボウ頭を書き始める
- ③ ボウ易が自由化される
- ④ 勇気ある行動に脱ボウした
- ⑤ ビタミンCが欠ボウする

(4)

頑コ

4

- ① 久しぶりにコ郷へ帰る
- ② 板をねじでコ定する
- ③ 在コを処分する
- ④ 周囲からコ立する
- ⑤ 利コ主義を改める

(13)

セマイ

5

- ① 海キヨウを渡る
- ② 苦キヨウに立たされる
- ③ キヨウ量な人間
- ④ 歯並びをキヨウ正する
- ⑤ 架キヨウ工事に着手する

問2 傍線番号(5)・(6)・(8)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。

6

～

8

(5) 融通がきかなかった

6

- ① 自分勝手に周囲を顧みなかった
- ② 場に応じた適切な対応ができなかった
- ③ 自分の感情をあまり抑制できなかった
- ④ 誰に対してもまるで愛想がなかった
- ⑤ 不器用で人と上手につき合えなかった

(6) 不慮の

7

- ① 不注意による
- ② 思いがけない
- ③ 運の悪い
- ④ 原因不明の
- ⑤ 周囲の涙を誘う

(8) 風格

8

- ① 容姿や態度などに現れる気高さ
- ② 健康的で頑丈な体
- ③ 他の人とは違った雰囲気
- ④ 困難や危険を恐れない強い心
- ⑤ 威圧的な荒々しい態度

問3 傍線番号(7)「空っぽのケージだけはいまもそのまま残っている」とあるが、これは何を表しているか。最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

9

- ① たくさんの犬を死なせたことに、家族が後悔と戒めの気持ちを持っていること
- ② この家族が周囲になじめず、時代の変化に取り残されていること
- ③ 家族がまだ幸せだった、犬を飼っていたところが忘れられないこと
- ④ 死なせてしまうにもかかわらず、次々に犬を飼うようないい加減な家族であること
- ⑤ 犬はすべて死んでしまったが、いまだに家族の一員のように思われていること

問4 空欄番号

(9)

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

10

- ① しぶしぶ
- ② 喜々として
- ③ こっそり
- ④ 堂々と
- ⑤ 押しつけがましく

問5 傍線番号10 「急いでしゃぼん玉液を手にとった」とあるが、ここからは「私」のどのような感情がうかがえるか。最も適

切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 姉のような大人にあこがれ、子供である自分を卑下している
- ② 大人を冷静に観察し、大人が子供に対して望む像を演じている
- ③ 子供をむやみに心配するだけの大人のことを、ばかにしている
- ④ 大人に庇護ひごされる子供である自分の立場を、息苦しく感じている
- ⑤ 大人・子供という枠にとらわれず、どちらにも属そうとしていない

問6 傍線番号11 「この家の、外の世界を受け容れているのだから」とあるが、「私」は「この家」の世界と「外の世界」につ

いてどのように感じていると考えられるか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① 外の世界の方がこの家の独特の世界よりも優れていることを知って劣等感を抱き、自分の殻に閉じこもっている
- ② 外の世界の素晴らしさに魅ひかれてはいるが、まだ子供である自分には外に出る資格がないと思っって自重している
- ③ この家の独特の世界を心地よく感じているが、大人になるとは外の世界に順応することだとわかっってもいる
- ④ 外の世界や姉が正しいことはわかっっているが、この家の独特の世界への愛着もあり、そのあいだで苦悩している
- ⑤ この家の独特の世界よりも外の世界を優先させる姉の態度に幻滅し、自分は外の世界には出ないと決めている

問7 傍線番号(12)「ひさしぶりだな」とあるが、「おじいちゃん」はなぜこう言ったのか。その理由の説明として、最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 気持ちを通じ合っている「おじいちゃん」と「私」には、この言葉が合図のようなものになっていたから
- ② 最初から「身長を測ろう」とは言い出せないほど、「おじいちゃん」と「私」は気を遣いあう関係だったから
- ③ 「おじいちゃん」は直接「身長を測ろう」と言わなくてもわかるだろうと、「私」のことを買いかぶっていたから
- ④ 毎日夕食の時くらいしか「私」の顔を見られないことを、「おじいちゃん」は不満に思っていたから
- ⑤ 「私」の身長を測るといふ子供っぽい行為を、「おじいちゃん」は内心恥ずかしく感じていたから

問8 「私」と「姉」の会話から読み取れる、「私」の気持ちの説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマ

クしなさい。

14

- ① 細かいことをあれこれと詮索する「姉」に、監視されているような気がしている
- ② 「私」を見下したように話しかけてくる「姉」をうっとおしく思っている
- ③ 自分のことをよく理解していない「姉」に対して、いらだたしさを感じている
- ④ 「大人」である「姉」に少し距離を感じて、多くを話す気になれない
- ⑤ 「姉」は常に自分にとってあこがれの存在なので、気恥ずかしく感じている

問9 この文章における表現の特徴の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 祖父の思い出と現在の出来事を交互に描写することで、「私」が空想にふけりがちな子供であることを表している
- ② 藤棚の横から姿を消したハンモックや上へ上へのぼっていくしゃぼん玉の描写は、祖父の死を暗示している
- ③ 姉との会話の場面を短い言葉のやり取りでリズムカルに描くことで、家族の親密さを効果的に表現している
- ④ 本文中の「騙し絵」「自分だけが日陰にいて」といった表現は、「私」が家族から疎外されている状況を示している
- ⑤ 「ばしゃばしゃ」「きらきら」などの副詞を多用することで、「私」が子供であることを強調している

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

都市社会学の研究対象を明らかにするにあたって、カステルが注目したのは、「労働力の再生産」である。労働力の再生産とは、もともとマルクスの用語で、労働することによって消耗した労働力が、消費活動を通じて回復することをいう。

つまり、消費とは労働力の再生産なのである。そして労働力の再生産には、何時間も働いて消耗した労働力が、食事や睡眠などによって次の日には回復しているという

(1) な意味での再生産と、何十年も働いて年若い、労働能力を失った労働者にかわる労働の担い手が、出産・育児や教育を通じて生み出されるとい

マルクス自身は、この労働力の再生産について、ある意味で (2) な意味での再生産とがある。

再生産されるというのである。それは、『資本論』の第一巻第二二章の次の一節に、典型的に現れている。

労働者階級の不⁽⁵⁾ダンの維持と再生産は、やはり資本の再生産のための⁽⁶⁾コウ常的な条件である。資本家はこの条件の充足を、安んじて労働者の自己維持本能と生殖本能とに任せておくことができる。

実はこれは、マルクスの女性⁽⁷⁾軽視のあらわれとして、後のフェミニストたちから鋭く批判されるようになった一節でもある。自己維持本能と生殖本能によって、労働者の労働力がすんなり再生産されるかのように書かれているが、実はそのためには、食事を作ったり、洗濯をしたり、掃除をしたり、さらに子どもを産み育てたりといった、長時間の家事労働が必要であるはずだ。その多くを担っているのは女性たちであり、こうした女性たちの⁽⁸⁾貢献が、ここでは無視されている。現実には、労働力の再生産はそう簡単ではない。

マルクスが軽視していた問題が、もうひとつある。それは、住宅や交通機関、学校や病院などの施設や制度が、労働力の再生産に果たす役割である。もつともマルクスは、家事労働における女性の役割ほどには、この問題を無視しがちだったわけではな

い。『資本論』や、これに関連するいくつかの著作では、労働力の再生産における教育や医療の役割についていくつかの言及があり、一定の関心をもっていたことがわかる。しかし同志だったエンゲルスが、住宅問題に並々ならぬ関心をもっていたのと比較しても、全体としては「自己維持本能と生殖本能」という説明に傾きがちだったことは否定できない。

カステルは、この問題に注目することによって、都市を資本主義の社会構造のなかに明確に位置づけることができると考えた。労働力は消費活動を通じて再生産されるが、消費活動には個人的消費と集合的消費の二種類がある。

個人的消費とは、人々が主に家庭で、自分の所有する消費手段（消費財）を消費することである。これに対して集合的消費とは、大規模な住宅地や集合住宅、道路や鉄道、学校・病院、文化施設など、公共的な性格をもつ消費手段、つまり集合的消費手段を消費することである。産業の発展によって、大量の労働力が必要になると、もはや労働力の再生産を、個人的消費だけでまかなうことはできなくなる。こうして集合的消費の必要性は高まり、大量の集合的消費手段が用意されるようになる。

都市では、これらの集合的消費手段が集積し、相互に結びつけられ、組織化されている。都市とは、単なる人口の集積ではない。だから、多数の人が集まる難民キャンプを都市とは呼ばない。また都市とは、単なる産業の集積ではない。だから、石油コンビナートや巨大な製鉄所は都市ではない。集合的消費手段が配置され、大量の労働力が再生産される空間的な単位のことを、都市と呼ぶのである。

したがって、集合的消費のさまざまな形態やプロセス、そして集合的消費をめぐって生じるさまざまな問題や社会的対立こそが、都市社会学の研究対象だといえることができる。

都市で起る雑多な現象の多くには、集合的消費と労働力の再生産をめぐって生じるという共通点がある。たとえば住宅不足や公害は、労働力の再生産を脅かす。住民運動は、集合的消費手段が不足していたり、その質が低かったりすることに対するイ議申し立てであることが多い。団地の住民どうしの近所つきあいには、相互¹³⁾扶助の基盤となり、労働力の再生産の手助けとなる。都市にはさまざまな格差があるが、そのなかには、集合的消費手段の供給量や利用のしやすさの違いによる部分も大きい。

それでは資本主義社会において、集合的消費手段はどのような役割を果たしているのだろうか。もちろん労働力の再生産を可能にするというのが、その主要な機能なのだが、それだけにはとどまらない。さらに集合的消費手段は、利潤率を向上させるこ

とによって、企業活動を助けるのである。

ここで利潤率というのは、生産活動を通じて得られた利潤の大きさを、設備、機械、原料などの生産手段の購入費用（不変資本ともいう）と、賃金つまり労働力の購入費用（可変資本ともいう）の合計、要するに生産にかかった費用で割ったものである。経済学の一般的な習慣にしたがって、利潤をM、生産手段の購入費用をC、労働力の購入費用をVという記号で示せば、利潤率は次のような簡単な式で表わされる。

$$\text{利潤率} = \frac{M \text{ (利潤)}}{C \text{ (生産手段の購入費用)} + V \text{ (労働力の購入費用：賃金)}}$$

ところが資本主義が発展する⁽¹⁴⁾程で、利潤率はしばしば低下傾向を示しがちである。これには複数の要因があるが、なかでも重要なのは賃金の上昇圧力だろう。

生産活動が拡大すると、労働力に対する需要も拡大していく。これが続くと、人手不足が⁽¹⁵⁾顕在化する。失業者などを吸収しても、まだ人手が足りないとなると、労働市場は⁽¹⁶⁾逼迫し、賃金が上昇を始める。必要なのが原料や機械なら、増産することで価格上昇を防ぐことができるが、労働力はそうはいかない。

こうして利潤率は低下し、これが続けば利潤を目的とする経済活動は困難になってしまう。これが続くと、経済危機がやってくる。⁽¹⁷⁾このことはすでにマルクスも指摘していたが、この論点を発展させて経済危機の生じるメカニズムを明らかにしたのは、日本の経済学者である宇野弘藏だった（『恐慌論』など）。

それでは利潤率の低下を防ぐには、どうすればいいか。先の式から明らかのように、分母にある生産手段の購入費用、または賃金のいずれかを引き下げればいい。たとえば、生産手段を発展途上国などから安く仕入れるようにする。あるいは下請をいじめて⁽¹⁸⁾買いたたく。労働者の賃金を引き下げる。高給取りの中高年をリストラして、賃金の安い若者やパート主婦、派遣労働者などに置き換える。

いずれも現実に、企業によって行われてきたことだが、これだけでは限度がある。いくら発展途上国でも、仕入れ価格を無限に引き下げることはいし、賃金を下げすぎて生活できなくなった労働者が逃げたり、あるいは健康を害して働けなくなったりしたのは、生産活動がストップしてしまうからである。

⁽¹⁹⁾ ここで役に立つのが、集合的消費手段である。たとえば国や自治体が、家賃の安い公営住宅をたくさん供給したらどうなるか。労働者の必要生活費はその分安くなるから、賃金を下げる余地が広がる。同じく国や自治体が、無料の保育所や学校を作って、子育てを支援したらどうなるか。それだけ子育てにかかる費用は少なくなる。こうして企業は、その分だけ賃金を引き下げることが可能になる。

もちろん公営住宅や保育所・学校などには税金が投入されているが、個人で住宅を建てたり、自分で子どもの世話や教育を担ったりするのに比べれば、かかる費用ははるかに安いはずだ。このように国や自治体が集合的消費手段を供給すると、利潤率の低下を食い止めることができるのである。

つまり都市とは、集合的消費手段の基礎の上で、労働力が大規模に再生産される (20) な単位であり、これによって都市は、資本主義社会の存続に不可欠な労働力の再生産の必要に^応えるとともに、利潤率の低下を食い止める。以上のようにカステルは、集合的消費に注目することによって、都市社会学の研究対象を明確にするとともに、これらの研究対象が社会全体に占める位置をも明らかにした。

(橋本健二『階級都市』による)

(注1) カステル——マヌエル・カステル。スペインの社会学者(一九四二—)

(注2) マルクス——カール・マルクス。ドイツの経済学者(一八一八—一八八三)

(注3) フェミニスト——男女同権論者・女性解放論者

(注4) エンゲルス——フリードリヒ・エンゲルス。ドイツのジャーナリスト(一八二〇—一八九五)

問1 空欄番号

(1)

・

(2)

・

(3)

・

(20)

・

(16)

・

(2)

・

(17)

・

(3)

・

(18)

・

(20)

・

(19)

それぞれ一つずつ選びマークしなさい。(1) 16 (2) 17 (3) 18 (20) 19

- ① 楽観的
- ② 主観的
- ③ 空間的
- ④ 日常的
- ⑤ 平均的
- ⑥ 世代的

問2

傍線番号(4)・(8)・(15)・(16)・(18)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。 20 24

(4) 典型的に

20

- ① きちんと形式を整えて
- ② 格調高くまとめて
- ③ 同類のうちの特徴をよく表して
- ④ より発展したかたちで
- ⑤ 独特の魅力を兼ね備えて

(8) 貢献

21

- ① 目立たないところで活躍すること
- ② 役立つように力を尽くすこと
- ③ 他人のために自分を犠牲にすること
- ④ 地道な成果を積み上げること
- ⑤ 評価されなくても努力すること

(15)

顕在化する

22

- ① はつきりと形に表れる
- ② 広く注目される
- ③ 長期間にわたって続く
- ④ 深刻な状態になる
- ⑤ しばしば発生する

(16)

逼迫

23

- ① 打開の方策が見つからないこと
- ② 急激に荒廃し始めること
- ③ 拡大する機会を失うこと
- ④ 混乱して不安定になること
- ⑤ 行き詰まり余裕がなくなること

(18)

買いたたく

24

- ① 発注したにもかかわらず買わないこと
- ② ぎりぎりまで値切って買うこと
- ③ 買った代金をきちんと支払わないこと
- ④ いつもより買う量を大幅に減らすこと
- ⑤ 買った品に文句を付けて返品すること

問3 傍線番号(5)・(6)・(12)・(13)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

25
～
29

(5)

不|ダン

25

- ① 世間から指|ダン|される
- ② 支払いの算|ダン|をする
- ③ 社長の独|ダン|で進める
- ④ 実行計画を|ダン|合する
- ⑤ |ダン|結して闘う

(6)

コウ|常的

26

- ① コウ|例の行事に参加する
- ② 首|コウ|しかねる意見
- ③ コウ|貨に両替する
- ④ 均|コウ|を保つ
- ⑤ コウ|学心のある若者

(12)

イ|議

27

- ① イ|廠に満ちた態度
- ② 先生に敬|イ|を示す
- ③ 規則に|イ|反する
- ④ 権利を|イ|讓する
- ⑤ |イ|郷で暮らす

(13)

フ|助

28

- ① 鉄道を|フ|設する
- ② 子どもを|フ|養する
- ③ 畏|フ|の念を抱く
- ④ 実行力に疑問|フ|がつく
- ⑤ 鉄板が|フ|食する

(14)

カ|程

29

- ① カ|疎化が進む地域
- ② 散歩を日|カ|にする
- ③ 外|カ|で手術をする
- ④ 悪事に|カ|担する
- ⑤ 宿直室で|カ|眠をとる

問4 傍線番号(7)「女性軽視のあらわれ」とあるが、なぜこのようにとらえられたのか。その理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

30

- ① 女性の労働の内容を家事労働だけに限定して、正式な労働者とは見なそうとしなかったから
- ② 女性は生殖本能しか持たず、自己維持本能を備えていないというような表現だったから
- ③ 女性がほとんどを担った家事労働を考慮せず、簡単に労働の再生がなされると考えていたから
- ④ 資本の再生産と家事労働を深く結びつけ、再生産の成否の責任を女性に負わせようとしていたから
- ⑤ 女性は家事労働に従事するものとして、自己を維持するという権利を認めていなかったから

問5 傍線番号(9)「消費活動には個人的消費と集合的消費の二種類がある」とあるが、両者の関係の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 個人的消費の拡充なくして集合的消費の拡充はないので、集合的消費よりもまず個人的消費を大切にすることが求められる
- ② 個人的消費も集合的消費も労働力の再生産には欠かせない消費であるが、個人的消費が果たす役割は微々たるものである
- ③ 都市の発展には個人的消費と集合的消費のバランスが取れていることが必要不可欠であるが、産業が発展すると集合的消費が重要視される
- ④ 産業の発展に伴い、大量の労働力が必要になると、個人的消費は不要となり大量の集合的消費手段を用意することが必要となる
- ⑤ 労働力の再生産には個人的消費が必要不可欠であるが、大量の労働力が必要となった場合には、集合的消費の必要性も高くなる

問6 傍線番号(10)「多数の人が集まる難民キャンプを都市とは呼ばない」・(11)「石油コンビナートや巨大な製鉄所は都市ではな

い」とあるが、その理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① 難民キャンプには人数は集まっても集合的消費手段が整っておらず、石油コンビナートや製鉄所は人々が生活し労働力を再生産する場所ではないから
- ② 難民キャンプは大量の労働力が再生産される場ではあるが産業を生み出すことができず、石油コンビナートや製鉄所では自治体を作るほどの人口を確保できないから
- ③ 難民キャンプには各国から人が集まるので労働力を再生産するための共同体が構築されにくく、石油コンビナートや製鉄所は労働力の再生産の場とはいえないから
- ④ 難民キャンプには集合的消費手段はあっても他とのつながりがなく、石油コンビナートや製鉄所では労働力を消費するだけだから
- ⑤ 難民キャンプも石油コンビナートや製鉄所も、ともに集団的消費は十分行われているが、個人的消費が行われることがないから

問7 傍線番号(17)「このこと」の指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 生産活動の拡大が招く人手不足によって上昇した賃金を、利潤率の低下を防ぐために引き下げざるを得なくなること
- ② 労働力に対する需要の拡大から人手不足になると原料や機械の不足が重なることで、生産活動が困難になること
- ③ 生産活動が拡大し労働力に対する需要が高まると人手不足から賃金が上昇して利潤率が低下し、経済危機に陥ること
- ④ 賃金が上昇することで生産活動と労働力に対する需要の拡大が阻まれ、生産活動が低下し利潤率が低下すること
- ⑤ 利潤率の低下防止のために資金を投入して生産手段を増やすことになり、賃金用の資金が確保できなくなること

問8 傍線番号(19)「ここで役に立つのが、集会的消費手段である」とあるが、その理由の説明として、最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 国や自治体が集团的消費手段を提供し税金を減らせば労働者の金銭的負担が少なくなり、子育てにかかる費用を増やすことができるから
- ② 国や自治体が税金を投入して病院などの集会的消費手段を提供すれば、労働者が健康を害した時にも安心して治療に専念することができるから
- ③ 集会的消費手段がたくさん供給されればそこで労働者が消費することも増え、企業の収入の増加につながり、活動に必要な資金を集められるから
- ④ 国や自治体が集团的消費手段を提供すれば労働者の金銭の個人的負担が少なくて済むので、その分だけ賃金を引き下げられ、利潤率を向上させることができるから
- ⑤ 集会的消費手段が充実している自治体はたくさん労働者が集まり、人手不足による賃金の上昇を招かずにすむので賃金を引き下げることができるから

問9 この文章中で「都市」とはどのような場所と考えられているか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 大量の労働力を必要とする企業から集合的消費手段の供給を受けている場所
- ② 集合的消費手段が累積し結びつけられ組織化され、労働力が再生産されている場所
- ③ 集合的消費をめぐる問題を解消することが労働力の再生産につながっている場所
- ④ 女性が家事労働へ寄与することが高く評価され、集合的消費手段が充実している場所
- ⑤ 個人的消費と集合的消費のバランスが取れ、たくさんの人が集まってくる場所

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

かぞいろはあはれとみらむつばめすらふたりは人に契らぬものを

むかし、男ありけり。女に、男あはせたりけるが、失せにければ、また、異人に、婿とらむとしけるを、女聞きて、母にいひけるやう、「男に、具してあるべき末を、あらましかば、ありつる男であらましか。さる宿世の、なればこそ死ぬらめ。たとひ、したりとも、身のくせならば、またもこそ、死ぬれ。さること思しかく」などいひければ、母聞きて、おほきに驚きて、父に、語りければ、父、これを聞きて「我死なむこと、近きにあり。さらむ後には、いかにして、世にあらむ」とて、「さる事は、思ひよるぞ」といひて、なほ、あはせむとしければ、むすめの、親に申しけるは、「さらば、この家に巣くひて、こ生みたるつばくらめの、男つばくらめを、取りて殺して、つばくらめに、しるしをして、はなち給へ。さらむに、またの年、男つばくらめ具して、来たらむ折に、⁽⁶⁾それを見て、思し立つべきぞ」といひければ、⁽⁷⁾げにもと思ひて、家に、こ生みたる、つばくらめを取りて、男つばくらめをば、殺して、女つばくらめには、首に、赤き糸を、付けてはなち、つばくらめ帰りて、またの年の春、男も具せで、ひとり、首の糸ばかり付きて、まうで来たれば、それを見てなむ、おやども、また、男あはせむの心もなく、やみにけり。むかしの、女の心は、今様の、女の心には、⁽⁸⁾似ざりけるにや。つばくらめ、男ふたりせずといふこと、文集の文なりとぞ。

〔俊頼髓脳〕による

(注1) かぞいろは——父と母

(注2) 文集——唐の白居易の詩文集。平安時代の文学に大きな影響を与えた

問1 傍線番号(1)の「む」と文法的に同じものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 深き故あらむ
- ② ゆかしくしたまふなる物をたてまつらむ
- ③ 心あらむ友もがな
- ④ 母なむ宮なりける
- ⑤ 知りたることも、なほさだかと思ひてや問ふらむ

問2

傍線番号(2)「男に、具してあるべき末を、あらましかば、ありつる男ぞあらましか」とあるが、女がこのように言った理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

37

- ① 私に元の夫と一緒に暮らしていくという運命があったのならば、元の夫はそれ相応の財産を残してくれるはずなのに、何も残さず死んでしまったから
- ② 元の夫が夫としての自覚を持つことがなかったのならば、そのような男は、たとえ死んでしまったとしても仕方がないと考えたから
- ③ 元の夫に夫としての自覚が備わっていたのならば、妻を残して先立つようなことはなかったので、今度はしっかりと男と連れ添いたいと考えたから
- ④ 私に一人の男と添い遂げる意志があったのならば、元の夫は生きていたはずなのに、元の夫が結婚生活に耐えきれずに死んでしまったのは自分に責任があると考えたから
- ⑤ 私に一人の男と添い遂げる運命があったのならば、その運命にふさわしい男が夫となったはずなのに、元の夫は死んでしまったので自分にはそんな宿縁がないのだと考えたから

問3 傍線番号(3)・(8)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。

38

39

(3) 死ぬらめ

38

- ① ナ行変格活用動詞の連用形＋完了の助動詞＋意志の助動詞
- ② ナ行変格活用動詞の連用形＋受身の助動詞＋推量の助動詞
- ③ ナ行変格活用動詞の終止形＋現在推量の助動詞
- ④ ナ行四段活用動詞の終止形＋完了の助動詞＋意志の助動詞
- ⑤ サ行上一段活用動詞の未然形＋打消の助動詞＋現在推量の助動詞

(8) 似ざりけるにや

39

- ① ナ行上一段活用動詞の未然形＋打消の助動詞＋過去の助動詞＋断定の助動詞＋係助詞
- ② ナ行上一段活用動詞の連用形＋打消の助動詞＋過去の推量の助動詞＋断定の助動詞＋格助詞
- ③ ナ行上一段活用動詞の未然形＋打消の助動詞＋カ行下一段活用動詞の連体形＋格助詞＋係助詞
- ④ ラ行四段活用動詞の連用形＋過去の助動詞＋完了の助動詞＋係助詞
- ⑤ ラ行変格活用動詞の終止形＋過去の助動詞＋格助詞＋詠嘆の終助詞

問4 傍線番号(4)「さること思しかく」に表れた女の心情の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

40

- ① たとえもう一度結婚したとしても、また夫は死んでしまう運命であるはずだから結婚はしないという決意
- ② 元の夫が死んでしまったのは、妻である自分のせいなので再婚することはできないという自責の念
- ③ 元の夫は死んでしまったが、いろいろと世話を焼いてくれる親がいるので大丈夫だという安堵^{あんど}
- ④ たとえ元の夫は死んでしまったとしても、自分のためにつばめとなって帰ってきてくれるはずという期待
- ⑤ 別の男との結婚など、死んでしまった元の夫は決して許してはくれないだろうというあきらめ

問5 傍線番号(5)・(7)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

41

42

(5) さらに後には

41

- ① あなたが去ったあとには
- ② 私が死んでしまったあとには
- ③ 私の愛情がうせたあとには
- ④ 私の財産がなくなってしまうあとには
- ⑤ 私より愛情の深い人が現れたあとには

(7) げにもと思ひて

42

- ① 全く理解できないことだと思つて
- ② 実際に見てみるとわかるだろうと思つて
- ③ 現実的には不可能だと思つて
- ④ なるほどもつともなことだと思つて
- ⑤ 実におもしろいことだと思つて

問6 傍線番号(6)「それを見て、思し立つべきぞ」とあるが、どういうことか。その説明として、最も適切なものを、次の①〜

⑤の中から一つ選び記号でマークしなさい。

43

- ① つがいの雄つばめを殺した雌つばめが、次の年に別の雄つばめと帰ってきたら、自分も再婚を決心するということ
- ② ひなを殺されたつがいの雌つばめと雄つばめが、次の年に一緒に帰ってきたら、自分も再婚を考え始めるということ
- ③ つがいの雄つばめを殺された雌つばめが、次の年には帰ってこなくなったら、自分は再婚をやめるということ
- ④ つがいの雄つばめを殺された雌つばめが、次の年に別の雄つばめと帰ってきたら、自分は再婚をやめるということ
- ⑤ つがいの雄つばめを殺された雌つばめが、次の年に別の雄つばめと帰ってきたら、自分も再婚を決心するということ

問7 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

44

① 親は、娘がつばめを殺してくれと言ったので、そんな恐ろしいことを言うような娘には再婚相手が現れないのではないかと心配した

② 親は、娘に「自分たちはもう死ぬ」と嘘うそを言って、次の年につばめが帰ってくるまでに結婚しなければならぬと約束させた

③ 娘は、強く再婚を勧める親に、『文集』にはつばめが一人の夫に添い遂げるといふ話が載っていることを示し、再婚を断った

④ 娘は、強く再婚を勧める親に、つばめですら生涯一人の夫だけしか持たないのに、ましてや人である自分が新しい夫を迎えることはできないと示した

⑤ 娘は、自分の夫となる人は必ず死んでしまう運命にあるなどと母に語ったので、驚いた母は父と共に娘を再婚させるための作戦を練った

問8 本文の出典である『俊頼髓脳』は平安時代後期の歌論集である。同じ時代の和歌集として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 万葉集 ② 古今著聞集 ③ 新古今和歌集 ④ 和漢朗詠集 ⑤ 金葉和歌集